

## 据付手順

- |                       |                          |                      |
|-----------------------|--------------------------|----------------------|
| <b>STEP 1</b> 安全上のご注意 | <b>STEP 4</b> 室内ユニットの据付け | <b>STEP 7</b> 試運転と確認 |
| <b>STEP 2</b> 付属部品の確認 | <b>STEP 5</b> 室外ユニットの据付け |                      |
| <b>STEP 3</b> 据付場所の選定 | <b>STEP 6</b> 必要なときに     |                      |

## STEP 1 安全上のご注意 必ず守ってください

- ◆据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。
- ◆据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

◆本文中に使われる「給表示」の意味は次の通りです。



### 警告

死亡や重傷を負うおそれがある内容。

- 配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。  
(発熱や感電、火災の原因)
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内にR32以外の空気などを混入させない。  
(空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 指定冷媒(R32)以外は使用しない。  
(機器の故障や破裂、けがなどの原因)
- 調理室など油煙の多い所、または可燃性ガス、腐食性ガスや金属製のホコリのある場所には据え付けない。  
(水漏れや火災、故障の原因)
- 可燃性のもの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。  
(ひび割れや感電、引火の原因)
- 据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。  
(水漏れや感電、火災の原因)
- 据付工事は、付属品および指定の部品を使用し、この据付説明書に従って確実に進行。  
(ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因)
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に進行。  
(ユニットの落下によるけがの原因)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、専用回路を使用する。  
(感電や火災の原因)
- 据付工事は、電源を切って行う。  
(電気部品に触れると感電の原因)
- 漏電しゃ断器を取り付ける。  
(感電や火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、内線規程に従って所定の電線を用いて接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。  
(発熱や感電、火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖弁カバーなどが浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。  
(端子部の発熱や感電、火災の原因)
- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。  
(圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。  
(冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気し、据付工事完了後は冷媒ガスが漏れていないことを確認する。  
(冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因)
- 配管、フレアナット、工具はR32用、もしくはR410A用のものを使用する。  
(R22の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因)
- フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。  
(締め過ぎると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)
- アース工事を確実に進行。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。  
(感電や火災の原因)

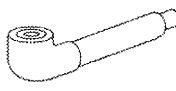
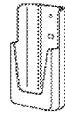





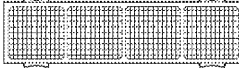

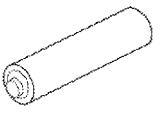




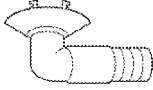
### 注意

傷害を負うおそれ、または物的損害が発生するおそれがある内容。

- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へは据え付けない。  
(発火の原因)
- 室内外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらない。  
(けがの原因)
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には据え付けない。  
(小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因)  
◆お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。  
(鋭利な板金によりけがの原因)
- ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。  
(屋内に浸水し、家財などをぬらす原因)

# STEP2 付属部品の確認

室内ユニット				
Ⓐ ドレンホース  1個	Ⓑ リモコンホルダー  1個	Ⓒ ワイヤレスリモコン  1個	Ⓓ ドレン継手  1個	Ⓔ 本体固定金具  2個
Ⓒ 断熱テープ  1枚	Ⓔ 結束バンド  4個	Ⓔ 光触媒空清フィルター  2個	① 接着剤  1個	① 乾電池単4  2本
Ⓒ 本体固定金具取付ネジ M4×8L  4本	Ⓒ リモコンホルダー取付ネジ M3×20L  2本	Ⓒ 取扱説明書 Ⓒ 掘付説明書 Ⓒ 保証書 各1部		

室外ユニット	
Ⓒ ドレンソケット  1個	◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の掘付説明書に従ってください。

現地調達部材	
品名	仕様
ドレン配管 (硬質塩ビパイプ)	VP20(外径φ26mm)その他必要に応じてソケット、エルボなど
接着剤	塩ビ系接着剤
断熱材	配管断熱用、ドレン配管断熱用それぞれ肉厚10mm以上の発泡ポリエチレン
内外連絡電線	VVFケーブル(φ1.6mm-3芯 いずれか φ2.0mm-3芯)
冷媒配管	STEP5 Ⓒ 冷媒配管を接続する を参照

別売品	
品名	品番
掘付枠	KKF411B10 KKF411B10B (いずれか1種類)
前面グリル	KDG413C10 KDG413C13 (いずれか1種類) KDG413C14-W

# STEP3 据付場所の選定

## 室内ユニット

- 吸込口、吹出口に障害物のない所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラピッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。  
(リモコンの受信距離が短くなる場合があります)
- テレビ、ラジオなどから1m以上離れた所。  
(映像が乱れたり、雑音が生じることがあります)
- 火災警報器から吹出口までが、1.5m以上離れた所。
- 据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。

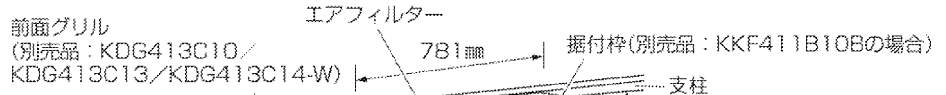
## リモコン

- リモコンに直射日光があたらない所。  
(室内ユニットからの信号が受信しにくくなります)
- リモコンホルダーを取り付ける場合は、取付位置で信号が受信されることを確認する。  
部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させた状態で確認する。

- ◆本図はセパレート形を示しています。
- ◆システムマルチの場合、配管長・高低差・据付寸法などはマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

## 室外ユニット

- 排水されたドレン水が流れても問題のない所。
- 吸込口、吹出口に障害物のない所。  
(降雪地では、雪でふさがれない所)
- 雨、直射日光があたりにくく、風通しの良い所。
- 吹出側正面から強風が連続的に吹き付けられない所。  
(ファンが高速で逆回転し、破損するおそれがあります)
- 海岸地域など塩分が多い所、硫化ガス成分が多い所、機械油などの油の蒸気が発生する所は避ける。  
(室外ユニットの寿命が短くなる場合があります)
- 消防法および都道府県の条例などを満足する所。
- 運転音や冷(温)風が隣家の迷惑にならない所。
- テレビ、無線機などのアンテナより3m以上間隔を取れる所。
- 据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。



日光触媒空清フィルター  
エアフィルターの裏側に取り付けます。  
取付方法の詳細は必ず取扱説明書に従ってください。

断熱筒を適当な長さに切り、すき間ができないようテープで巻く。

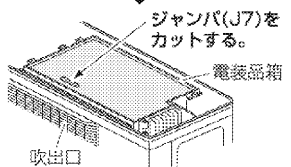
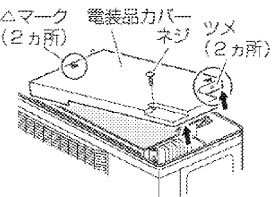
仕上げテープを巻くときは下から上へ巻く。

	最大 連絡配管長さ	最大 高低差
2.8kW、3.6kW機	25m以内	15m以内
4.0kW機	30m以内	20m以内

◆連絡配管が15mを超える場合は冷媒追加充てんしてください。  
配管1mあたりの冷媒追加量：20g/m  
また、室外ユニットのプリント基板にあるジャンパ(J7)をカットしてください。

### [ジャンパ(J7)の位置]

- 電装品カバーの外しかた
- ◆ネジ1本と△マーク2カ所のツメを外した後、図のように傾けて電装品カバーを取り外してください。



### 配管化粧カバー (現地調達品)

50mm以上

300mm以上

※50mm以上

◆据付場所によって異なる場合があります。(STEP5) ① 室外ユニットを設置するを参照)

250mm以上

吹出側正面から強風が吹き付け、ファンが破損するおそれがある場合は、室外ユニット吹出側の向きを変更するか、風向調整板(別売品)を使用する。

水はけの悪い場所では平置台(または樹脂製置台)の上に置く。室外ユニットは水平位置に据え付ける。(水漏れ、水たまりの原因)

転倒や落下のおそれがある場所は、基礎ボルトやブロック固定バンド(別売品)または針金などで本体を固定する。

- 室外ユニットの壁置きなどの据付けで振動が大きいときは、室外防振ゴム(別売品: KKS921A4)を使用する。

# STEP4 室内ユニットの据付け

## 穴あけについて

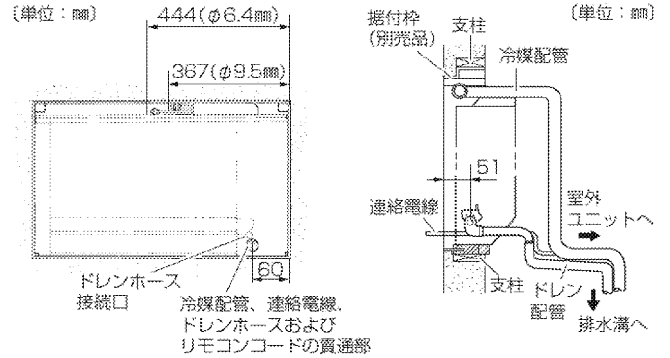
- 図の●の所に貫通穴(φ65mm)を室外側が下り勾配に開ける。

### 警告

特にメタルラス、金属板を使用している壁を貫通させるときは、ウォールカバーセット(別売品:KKW413A1)を必ず使用する。(発熱、感電、火災の原因)

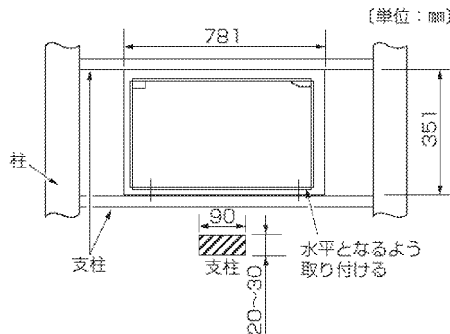
### 注意

壁貫通穴とのすき間は必ずパテ埋めをする。(水漏れの原因)

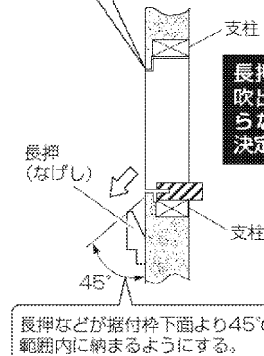


## 1 据付枠(別売品)を取り付ける

- 据付枠に同梱している取付説明書を参照して取り付ける。
- ◆据付枠を柱など重量を支える部材に支柱を通して固定します。
- ◆据付枠の先端が壁面と同一面になるよう取り付けます。(寸法は据付枠KKF411B10Bの場合)



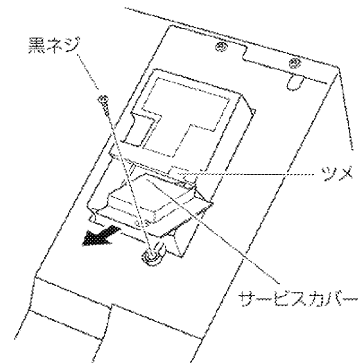
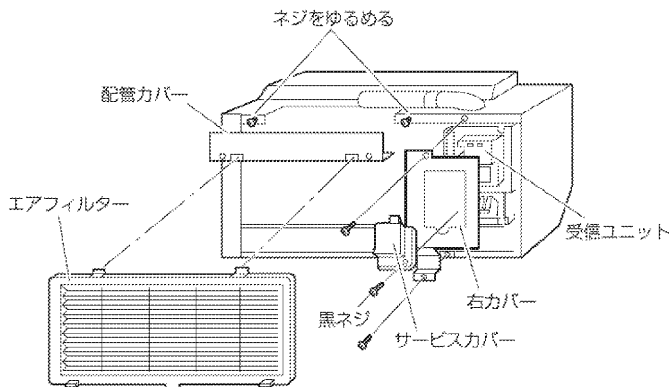
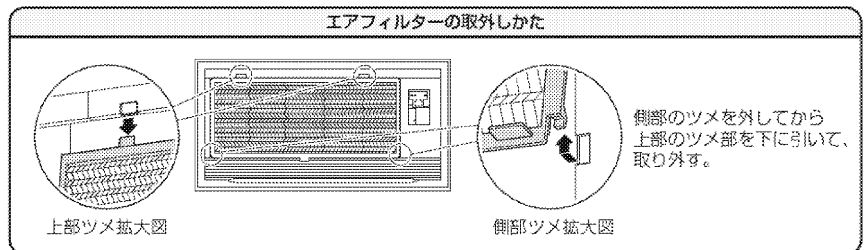
据付枠の先端が壁面と同一面になるように取り付け。



長押などが、冷温風吹出しのじゃまにならないよう、位置を決定する。

## 2 室内ユニットの準備をする

1. エアフィルターを取り外す。(ツメ2カ所)
2. ネジをゆるめて配管カバーを取り外す。(ネジ2本)
3. サービスカバーを取り外す。(黒ネジ1本)
4. 右カバーを取り外す。(ネジ2本)

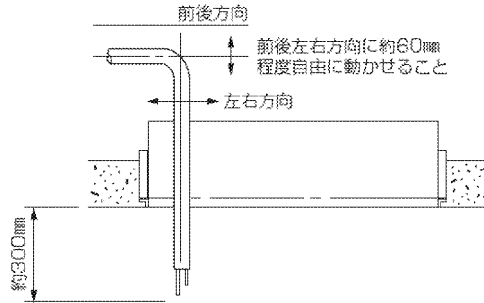


- サービスカバーは、黒ネジ(1本)を外し図の矢印方向に手前に引いて、取り外す。

# STEP4 室内ユニットの据付け つづき

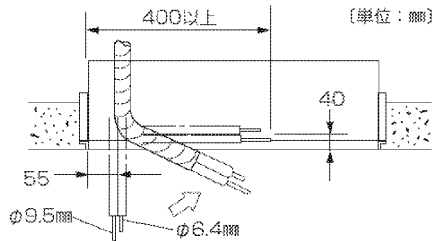
## ③ 冷媒配管、連絡電線、ドレンホースの準備をする

- ◆梅雨時の新築物件、新築の鉄筋コンクリート建築、通気のない天井裏など天井内(壁内)相対湿度が80%を超えると思われる場合は、断熱材の外皮表面に結露することがありますので、設置環境に応じて冷媒配管の断熱材を強化してください。
- ◆室内ユニットの配管接続をやりやすくするために、配管は多少前後左右自由に動かせる状態にしてください。

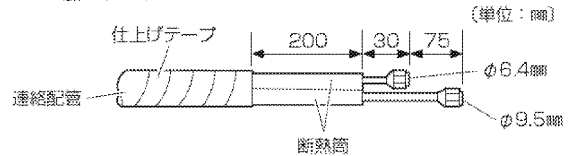


### 【冷媒配管の準備】

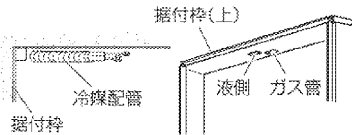
1. 配管が偏平しないよう曲げアール80mm程度に曲げる。



2. 配管の先端が図に示す寸法で仕上がるように切断し、フレア加工する。



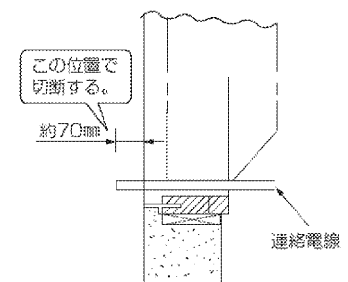
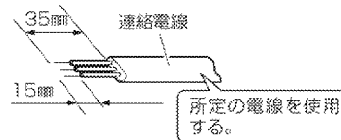
3. 据付枠の左上にくるように配管を整える。



- ◆据付枠(上)に配管接続位置を表示しています。目安としてください。

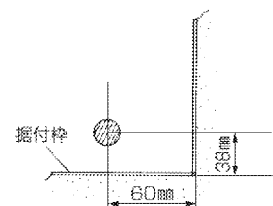
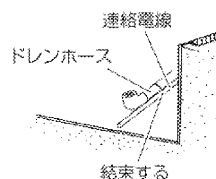
### 【連絡電線の準備】

1. 連絡電線を図の位置で切断する。
2. 電線の外側のシースを切り取る。  
◆内側のシースを傷つけないよう注意してください。
3. 先端を被覆むきする。



### 【ドレンホースの準備】

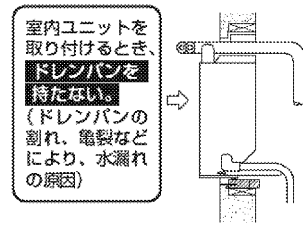
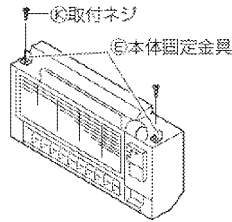
1. 室内ユニット取付け時、連絡電線、ドレンホースなどが、室内ユニットの貫通部に入りやすくするため結束バンドなどで結束する。
2. 連絡電線、ドレンホースなど結束したものが斜線部にくるようセッティングする。



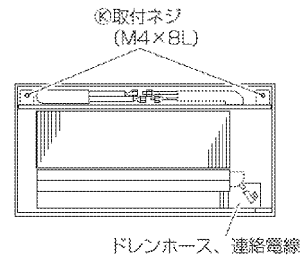
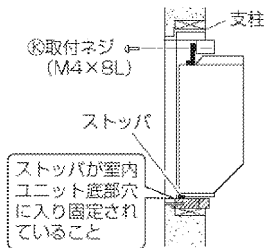
# STEP4 室内ユニットの据付け っづき

## 4 室内ユニットを据え付ける

1. 本体固定金具を取り付ける。  
 ⑥本体固定金具を⑧取付ネジ(M4×8L)で取り付ける。(左右各1本)
2. 冷媒配管は上へ押し上げて、室内ユニットを据付枠に挿入する。



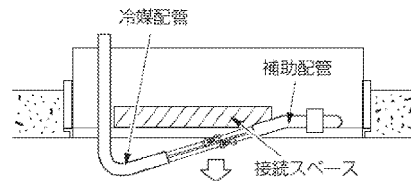
3. 束ねたドレンホース、連絡電線を室内ユニットの貫通部に通しながら据付枠に挿入する。
4. 室内ユニットの底部穴にストッパがくるように設置する。
5. ⑧取付ネジ(M4×8L)で本体を固定する。(左右各1本)



## 5 配管を接続する

●液管、ガス管を一体テーピング仕上げする場合は、各々液管、ガス管の分離断熱を十分に行ってから、仕上げをする。

1. 補助配管を手前に引き出す。
2. 冷媒配管を手前に引き出して接続する。  
 ◆必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。  
 (断熱方法と締めトルクについては、STEP5 ②冷媒配管を接続するを参照)  
 ◆曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用してください。(曲げ半径は30~40mm以上)  
 急に曲げると、その部分で断熱材が圧縮され、結露することがあります。

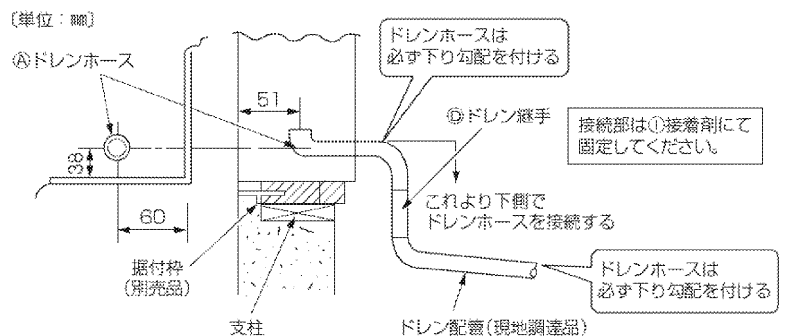
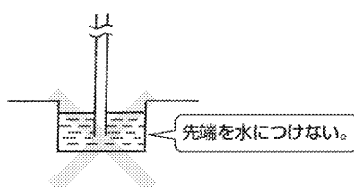


## 6 ドレン配管を接続する

- ドレン工事は確実に排水するように配管する。
- 配管は短く、下り勾配を付ける。
- ドレン配管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP20(外径φ26mm、内径φ20mm)を使用する。
- 屋内部のドレン配管は結露防止のため、内厚10mm以上の断熱材で断熱する。
- 室内ユニットに付属のドレンホース(接続口外径18mm、長さ250mm)で、図の位置までドレン配管を準備する。  
 ◆ドレンホースとドレン配管の接続は付属のドレン継手を使用してください。
- 配管工事終了後、ドレン排水がスムーズにできるか確認した後、ゴミの侵入を防止するため、テープなどで密封する。

気密性の高い部屋で換気扇などを使用したときに異音(ポコポコ音)が発生する場合はドレンホース用逆止弁を使用する。(別売品：KHDT1416を推奨)

- 汚水槽の中へは、ドレン配管を入れない。



### ドレンホースの接続について

- 電装品箱下のスペースより手を入れて、④ドレンホースをドレンパンの接続口に差し込む。
- ◆④ドレンホースはドレン口のシール材に密着するまで差し込んでください。

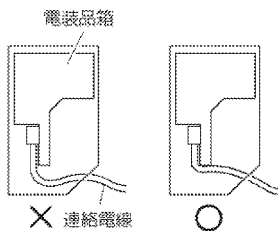
# STEP4 室内ユニットの据付け つづき

## 7 電線を接続する

### 警告

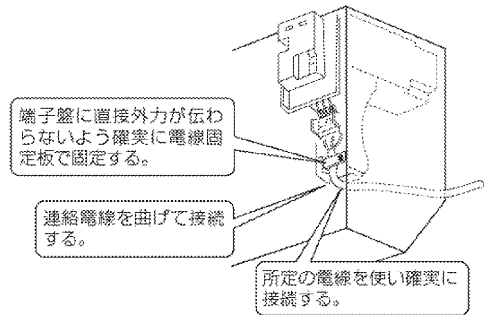
- 現地調達の電気部品を製品内に組み込まない。(ドレンポンプなどの電源は、端子盤から分岐させないでください。)(発熱、火災の原因)
- 漏電しゃ断器は通常タイプを使用する。(高感度タイプを使用する場合は、高周波・サージ対応型をご使用ください。)

1. 電線の被覆を15mmむく。
2. 電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥にあたるまで確実に差し込む。
3. 確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめる。
4. 電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止め具で電線を固定する。

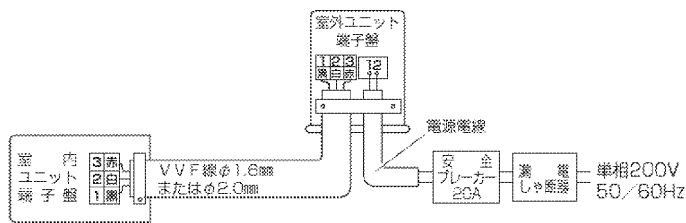


連絡電線は必ず電装品箱本体に沿わせる。

電装品箱本体に沿わさないと、前面グリルを取り付けたとき、ステッピングモーター取付板と干渉し、納まりにくい場合があります。



◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。



● 電源電線の最大こう長は表に合わせ、電気設備技術基準および内線規程に従って施工する。

能力帯 (kW)	電源電線最大こう長 (m)	
	φ1.6mm	φ2.0mm
2.8	11	17
3.6	11	17
4.0	10	16

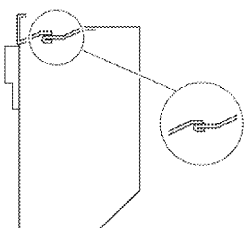
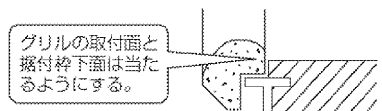
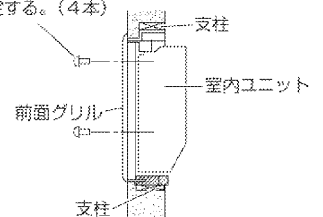
## 8 前面グリルを取り付ける

- 前面グリルに同梱している取付説明書を参照して取り付ける。
- ◆ 前面グリルの取付けに必要な部品は別売品の前面グリルに付属しています。
- 上下、左右方向は据付枠が見えないよう調節して取り付ける。

### 確認事項

- ① 吹き出し部周囲が本体シールと密着しているか確認する。  
(前面グリルの吹き出し部とシール材との間にすき間があると、ショートサーキットや露付の原因)
- ② スイングモーター用コネクタと室温サーミスタ用コネクタを必ず接続する。
- ③ 各部品を取り付ける。(STEP4 ② 室内ユニットの準備をする を参照)  
(1) 右カバー  
(2) サービスカバー  
(3) 配管カバー  
(4) エアフィルター

タッピングネジ(M4×12L)  
(前面グリルに同梱)  
左右各2カ所を固定する。(4本)



● 配管カバーは必ずケーシング上面に差し込み固定する。

# STEP5 室外ユニットの据付け

◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

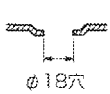
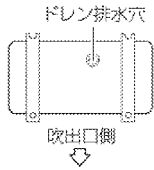
## 1 室外ユニットを設置する

1. 据付場所の選定と配管位置から設置場所を決める。
2. ドレン水の処理が必要な場合はドレン工事を行う。

### ドレン工事について

- ドレン排水するときは、㊸ドレンソケットを使用する。
- ドレン排水穴が取付台や床面などに隠れる場合は、室外ユニットの脚下に厚さ30mm以上の間座を入れる。
- 寒冷地では、室外ユニットのドレン排水は「タレ流し」にする。  
(ドレンホースを使用すると、ドレン水が底フレーム内で凍結し、暖房効果が損なわれる原因)

(下から見た図)

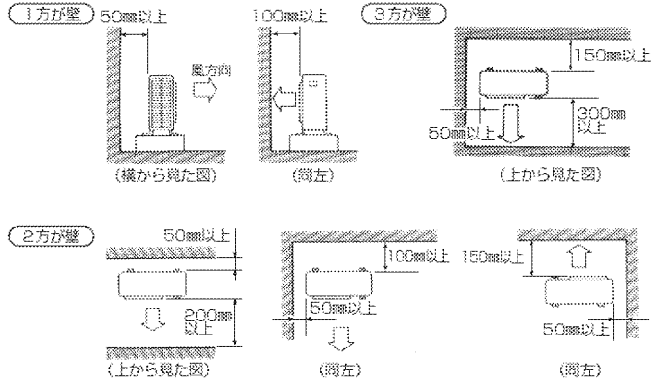


#### ㊸ドレンソケットの取付け



### 据付所要スペースについて

- 吸込口および、吹出口周辺に壁などの障害物がある場所に据え付ける場合、下記パターンに従う。
- 吹出側壁面高さは1.2m以下とする。



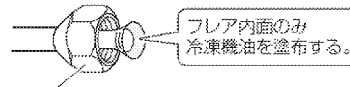
## 2 冷媒配管を接続する

◆システムマルチの場合、室外ユニットの閉鎖弁カバーの取外し、取付けかたについてはマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

1. ガス漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油(エーテル油)を塗布する。過剰な締付トルクにならないよう、フレア外面やフレアナットのネジ部には冷凍機油を塗布しない。
2. 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手回して3~4回転ねじ込み、その後トルクレンチを使用し指定のトルクでしっかりと締め付ける。
  - ◆フレアナットを締め付け過ぎると、長期経過後フレアナットが割れ、ガス漏れの原因になります。
  - ◆フレア内面に塗布する冷凍機油は、従来のR410A用を使用することもできます。
  - ◆異径管継手を使用する場合はガス漏れに注意してください。

**警告**  
フレア加工は正しく確実に行う。(不備があると冷媒ガスが漏れる原因)

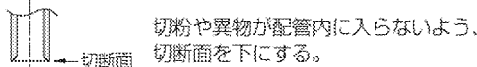
フレアナット締付トルク		弁ふた締付トルク
ガス側(配管径 9.5mm) 32.7~39.9N·m (333~407kgf·cm)	液側(配管径 6.4mm) 14.2~17.2N·m (144~175kgf·cm)	17mm(2面幅) 14.2~17.2N·m (144~175kgf·cm)
		19mm(2面幅) 17.1~20.9N·m (175~213kgf·cm)
		22mm(2面幅) 21.6~27.4N·m (220~280kgf·cm)
		サービスポート締付トルク
		10.8~14.7N·m (110~150kgf·cm)



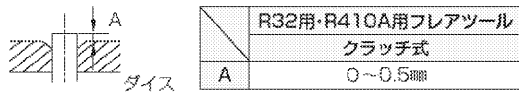
フレアナット  
年数の経過による異食割れを防ぐため、フレアナットは本体付属のものを使用する。

### フレア加工と冷媒配管工事について

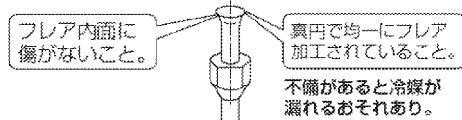
- ①パイプカッターで配管を切断する。
- ②切断面は正しく直角にバリ取りを行う。



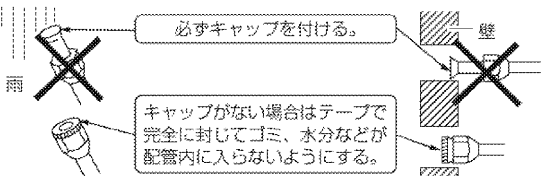
- ③フレアナットを配管に挿入する。
- ④ダイスからの出しろを正しくセットする。



- ⑤フレア加工が正しく出来ているかチェックする。



- 曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用する。



#### 既設配管の接続について

◆本製品(R32冷媒)は、R410A冷媒で使用していた既設配管に接続可能です。

#### 配管と断熱の選定

◆配管セット(別売品)をおすすめしますが、市販材料使用の場合は次のことを守ってください。

#### 市販の銅管使用の場合

仕様C1220T-0(JIS H3300) 付着油量40mg/10cm以下

#### 断熱材材質：発泡ポリエチレンフォーム

熱伝導率：0.041~0.052W/mK(0.035~0.045kcal/mh°C)

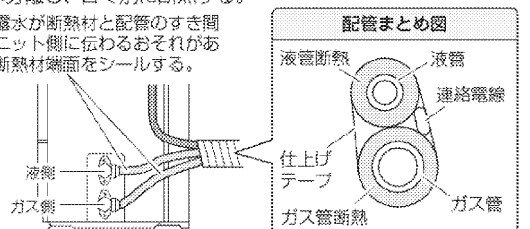
(ただし、ガス管は表面温度が最高110°Cになるため、それに耐えるものを使用する)

◆液管、ガス管共必ず断熱し、断熱寸法は下記に従ってください。

ガス管	液管	ガス管断熱	液管断熱
外径9.5mm	外径6.4mm	内径12~15mm	内径8~10mm
肉厚0.8mm	肉厚0.8mm	肉厚10mm以上	肉厚10mm以上
曲げ半径30mm以上	曲げ半径30mm以上	-	-

- ガス管、液管は分離し、各々別に断熱する。

閉鎖弁の結露水が断熱材と配管のすき間から室内ユニット側に伝わるおそれがある場合は、断熱材端面をシールする。





# STEP5 室外ユニットの据付け っづき

## 3 エアパーズとガス漏れ確認を行う

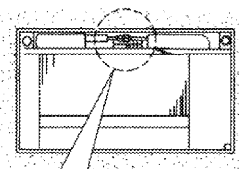
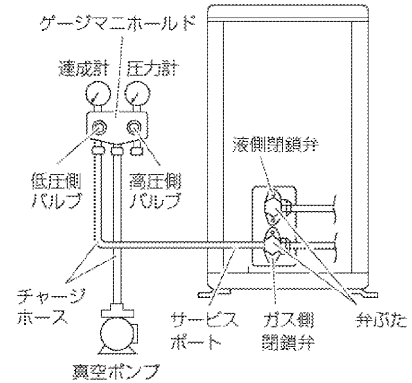
地球環境保護の観点から、エアパーズは、真空ポンプをご使用ください。

- R32用もしくはR410A用のツール(ゲージマニホールド、チャージホース、真空ポンプアダプターなど)を使用する。
- 閉鎖弁の弁棒操作用に六角レンチ(対辺4mm)を用意する。
- 冷媒配管の接続部はすべてトルクレンチを使用し、所定のトルクで締め付ける。

1. 図を参考に各接続箇所を接続する。
2. ゲージマニホールドの低圧側バルブを全開、高圧側バルブを全閉にする。  
◆高圧バルブは以降操作しません。
3. 真空引きを行い、連成計が $-0.1\text{MPa}$ ( $-76\text{cmHg}$ )になっていることを確認する。

連絡配管長さ	真空ポンプ運転時間
15m以内	10分以上
15mを超える	15分以上

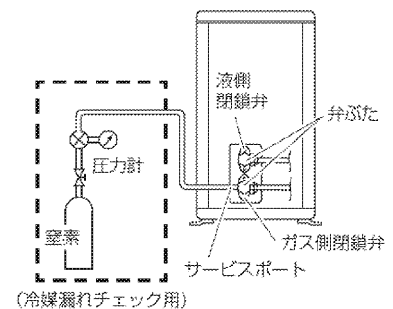
4. ゲージマニホールドの低圧側バルブを全開にし、真空ポンプを停止させる。  
◆1~2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認します。  
●連成計の針が戻る場合は、水分の混入や接続部の漏れが考えられるため、各接続部の点検、およびナットをいったんゆるめ、締め直した後、もう一度真空引きの操作を行う。
5. 液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外す。
6. 液閉鎖弁の弁棒を六角レンチを使って反時計方向に $90^\circ$ 開き、5秒後に閉じ、ガス漏れ確認を行う。
7. ガス閉鎖弁のサービスポートよりチャージホースを外し、液閉鎖弁、ガス閉鎖弁を全開にする。  
◆弁棒は、あたりがある所で止め、それ以上回さないでください。
8. 液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたとサービスポートのキャップをトルクレンチを使って所定のトルクで締め付ける。



- 部分の漏れ確認を行います。
- 石けん水を塗布してチェックする。
- チェック後石けん水をふき取る。

### 気密試験について

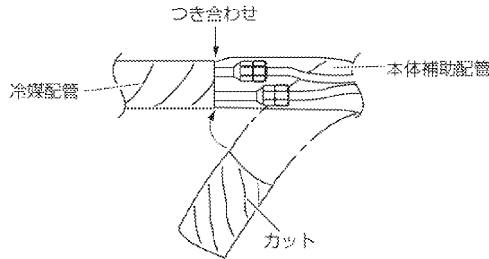
- ◆ 気密試験を行う場合は、下記の要領で作業してください。
- 室外ユニット閉鎖弁は全閉のまま、窒素ガスを使用して冷媒漏れチェック(気密試験)を行い、圧力低下がないことを確認する。  
気密試験は、高圧部の設計圧力まで昇圧させる。(4.17MPa)
- 気密試験後は真空ポンプを使用して窒素を回収する。



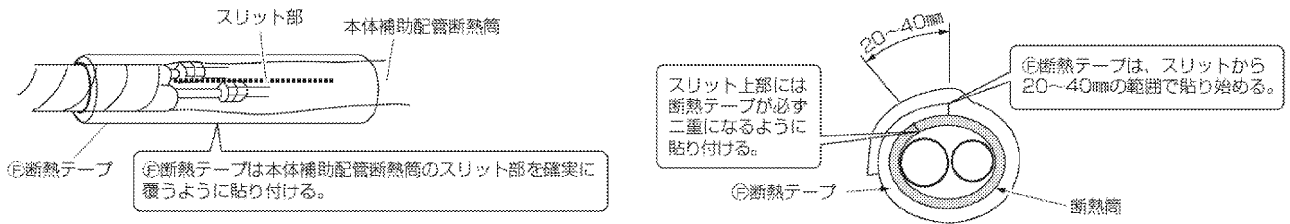
# STEP5 室外ユニットの据付け つづき

## 4 接続配管の仕上げをする

1. 冷媒配管断熱筒と本体補助配管断熱筒をつき合わせてカットする。

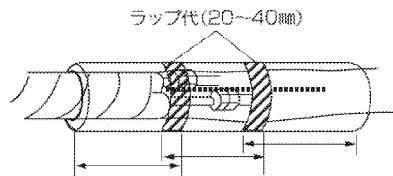


2. 配管接続部に㊦断熱テープを貼り付ける。  
(貼り付けにくい場合は、㊦断熱テープを分割して使用してください)

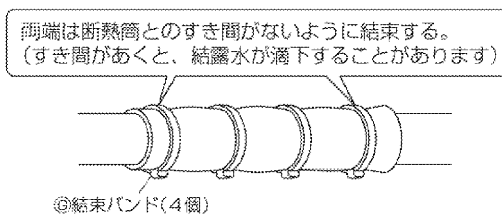


### 分割して使用する場合

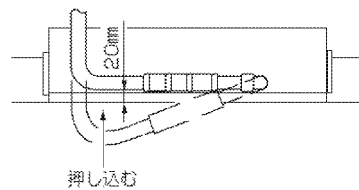
- ㊦断熱テープのラップ代を設け、すき間がないように貼り付ける。



3. 両端とその間を㊧結束バンドで縛る。  
(㊦断熱テープを分割して使用した場合は、その部分を㊧結束バンドで縛ってください)



4. 配管をしっかりと奥へ押し込む。

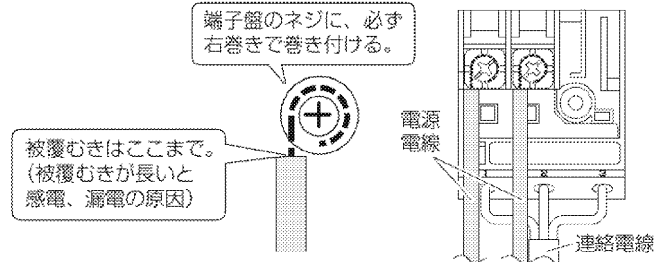
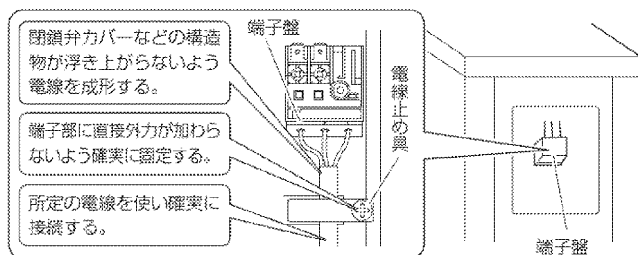


◆梅雨時の新築物件、新築の鉄筋コンクリート建築、通気のない天井裏など天井内(壁内)相対湿度が80%を超えられる場合は、断熱材の外皮表面に結露することがありますので、設置環境に応じて冷媒配管の断熱材を強化してください。

## STEP5 室外ユニットの据付け つづき

### 5 電線を接続する

1. 室外ユニットの端子盤に連絡電線を取り付ける。  
●取付けかたは、STEP4 電線を接続する に準じる。
2. 電源電線を取り付ける。



#### アース線の工事

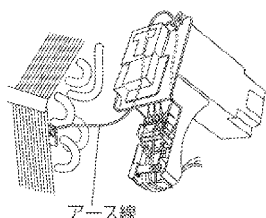
1. D種接地工事を行う。  
●接地抵抗は必ず100Ω以下にする。  
ただし漏電しゃ断器(定格感度電流が100mA以下で動作時間が0.2秒以下の電流動作型のもの)を取り付ける場合は500Ω以下にする。

#### アース線の接続について

##### 室内アースの場合

- ①前面グリルを取り外す。
- ②ネジを外しサービスカバーを取り外す。
- ③ネジを外し右カバーを取り外す。
- ④アース線を取り付ける。

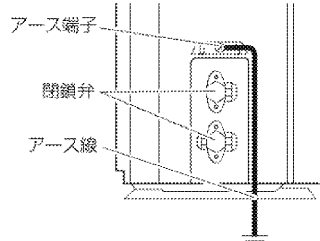
◆アース線は電装品箱の左側面を通し、上部より電装品箱内側を通し、連絡電線と一緒に外部へ出してください。



##### 室外アースの場合

◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

- ①閉鎖弁カバーを取り外す。
- ②アース線をアース端子に接続する。



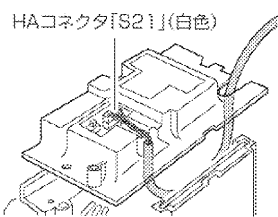
## STEP6 必要なときに

### HAシステム(遠隔制御機器)と接続する場合

#### HAの場合

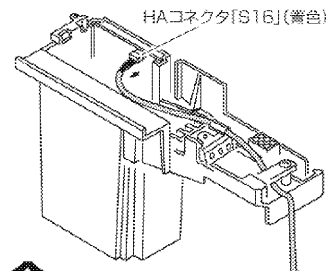
1. HA接続コードを図のように通し、プリント基板上のHAコネクタ「S21」(白色)に接続する。

◆リモコン切換スイッチ(SW5-2)は「OFF:ワイヤレス」(工場出荷時のまま)です。



#### JEM-A規格対応HAの場合

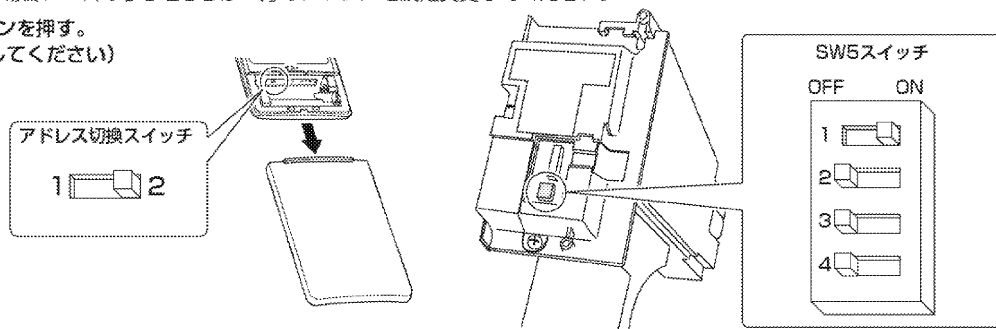
1. HA接続コードを図のように通し、プリント基板上のHAコネクタ「S16」(青色)に接続する。



### 同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合

◆同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを設定変更してください。

1. リモコンの電池を抜いて、「取消」ボタンを押す。(リモコンの表示が消えたことを確認してください)
2. リモコンのアドレス切換スイッチを「2」にする。
3. プリント基板上のアドレススイッチ(SW5-1)を「ON」にする。

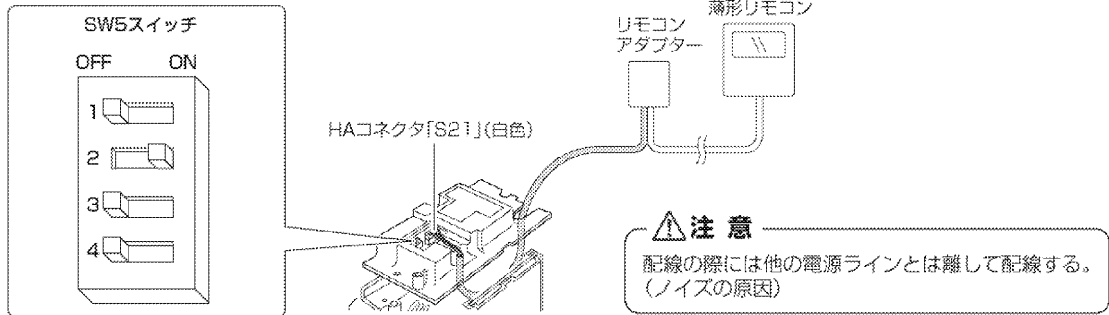


## STEP6 必要なときに

### 薄形リモコンを取り付ける場合

◆薄形リモコン使用時には、ワイヤレスリモコンは使用できません。

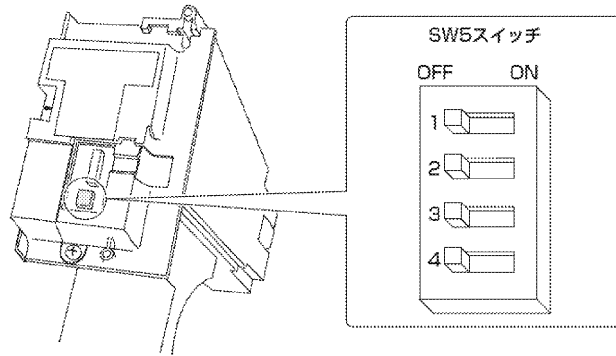
- STEP4 室内ユニットの準備をする を参考に右カバーを取り外す。(ネジ2本)
- 接続コードを図に従って通し、プリント基板上のHAコネクタ[S21](白色)に接続する。
- プリント基板上のリモコン切換スイッチ(SW5-2)を「ON」にする。



### スイッチ設定方法と使いかた

SW5スイッチ1~4 初期設定：OFF

スイッチ番号	SW5-1	SW5-2	SW5-3	SW5-4
設定機能	アドレス	リモコン切換	他室運転	—
内容説明	同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合、「ON」にする。	薄型リモコンを接続する場合、「ON」にする。	使用しません。	使用しません。

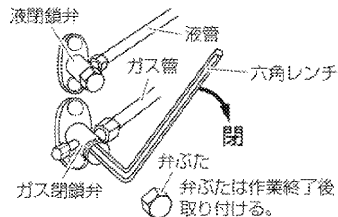


### エアコンの移設や修理、廃棄するとき **ポンプダウン** 運転

- ◆地球環境保護の観点から、移設時にはポンプダウンを行い閉鎖弁をしっかりと閉めてください。
- ◆フロン回収破壊法により、冷媒フロンの回収が必要です。廃却時にはフロン回収事業登録業者に依頼してください。

#### 1. ポンプダウン運転を行う。

- ①液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外す。
  - ②強制冷房運転を行う。
  - ③5~10分後、液閉鎖弁を六角レンチを使って閉じる。
  - ④2~3分後、ガス閉鎖弁を閉じる。
- ◆強制冷房運転を停止します。



#### フロンについて

##### R32冷媒

家庭用エアコンには最大でCO<sub>2</sub>(温暖化ガス)1,200kg(マルチシステムの場合は3,600kg)に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを注意喚起するための表示です。

#### 強制冷房運転のしかた

- ◆室内ユニットの応急運転スイッチを5秒以上長押しする。
- ◆「ピピッ」と鳴り、運転を開始します。
- ◆強制冷房運転は約15分で終了し、自動的に停止します。
- ◆強制的に運転を終了させたいときは室内ユニットの応急運転スイッチを押してください。

# STEP7 試運転と確認

## 試運転を行う

新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックスがけ時には、エアコンの運転を避けてください。  
作業終了後にエアコンを運転する場合は、十分に換気を行ってください。ワックスなどの成分がエアコン内部に付着し、水漏れの原因になります。

◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

◆試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。

1. コンセントの電圧または電源電圧を測定し、仕様通りか確認する。

2. 冷房運転のときは設定温度を一番低い温度に、暖房運転のときは一番高い温度に合わせる。

◆室内温度によっては冷房、暖房どちらか一方しか運転できないことがあります。

冬季に冷房運転をするなどの場合は、本体リモコンから下記の方法で試運転モードにして行ってください。

◆試運転後には適切な温度(冷房の場合26~28℃、暖房の場合20~22℃)に戻してください。

◆停止後約3分間は製品保護のため運転しません。

### ■試運転モードの方法

①「運転/停止」ボタンを押す。(運転開始します)

②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「運転切換」ボタンを3つ同時に押す。

③温度▲ボタンを押し、「7」を選択する。

④「運転切換」ボタンを押し、試運転モードを開始する。

◆試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは、「運転/停止」ボタンを押してください。

3. 取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認する。

4. アドレススイッチ、リモコン切換スイッチの設定を確認する。

◆エアコンを運転しないときでもいくらか電力を消費しています。

据付け後、お客様がすぐに使用されない場合などは、ムダな電力消費をさけるため、ブレーカーを切ってください。

また、お客様への引き渡し時には必ずブレーカーを入れてください。

## 据付工事後に、必ず確認してください。

**確認項目** チェック項目 □欄でチェック(☑)をしてください。

番号	チェック項目	不良の場合
1	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられているか?	落下、振動、騒音
2	<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行ったか?	冷えない、暖まらない
3	<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行ったか?(ガス管、液管、室内側のドレンホース延長部)	水漏れ
4	<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレン排水のチェックをしたか?	水漏れ
5	<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認したか?	室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下
6	<input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ポコポコ音)はしないか?	別売品ドレンホース用逆止弁使用
7	<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実か?	感電の危険
8	<input type="checkbox"/> 「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電線は正しく接続したか? (電線の仕様、接続箇所)	運転不能、焼損
9	<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込口、吹出口が障害物でふさがっていないか?	冷えない、暖まらない
10	<input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いているか?	冷えない、暖まらない
11	<input type="checkbox"/> 化粧パネルからのリード線のコネクタは確実に接続されているか?	運転不能
12	<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認したか?	運転不能
13	<input type="checkbox"/> アドレスの設定は確認したか?	運転不能

機種名	製造番号	据付年月日	据付担当サイン欄

◆この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください)

# MEMO

---

# MEMO

---

# MEMO

---